佐倉市
新町遺跡

四街道市
東作遺跡

令和5年度

最新出土考古資料展

柏市
寺下前遺跡

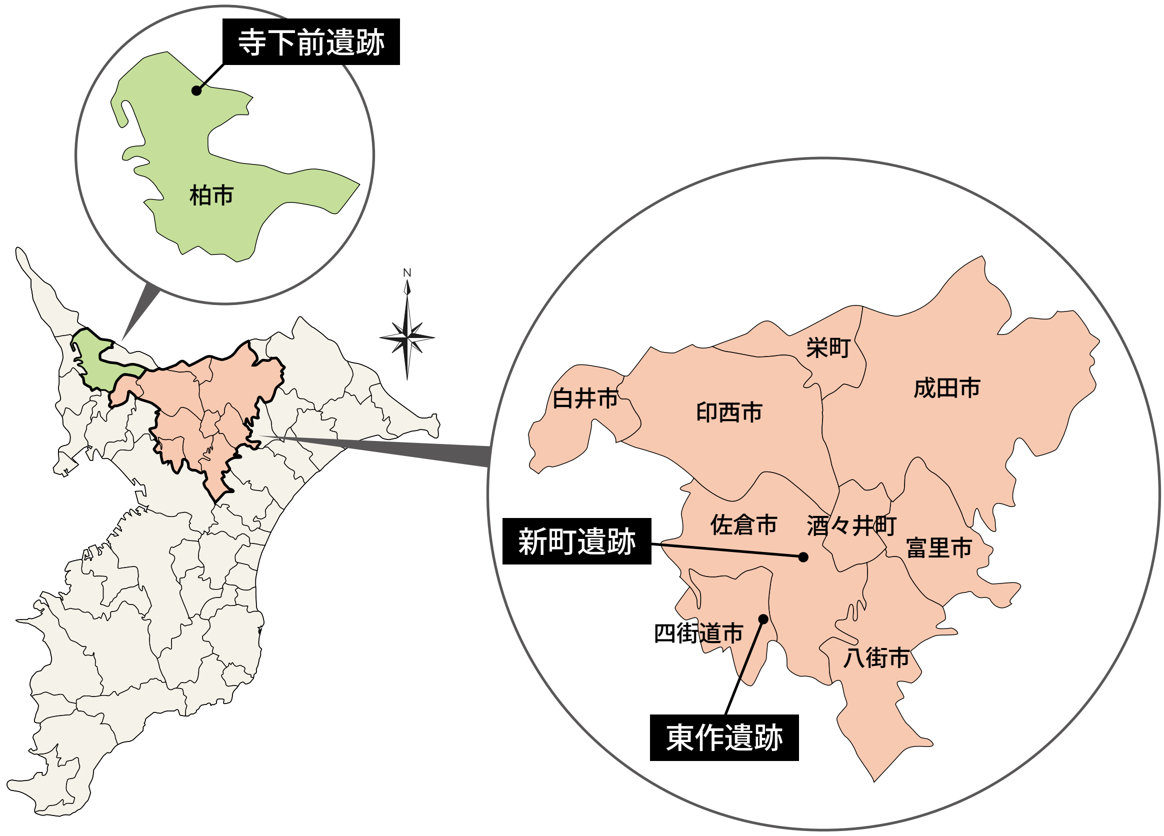
ごあいさつ

　この度の展示は、第26回目となる「最新出土考古資料展」となります。今回紹介させていただく遺跡は柏市に所在する縄文時代中期の集落跡である寺下前遺跡、四街道市に所在する中世の土塁、堀などの遺構が確認された東作遺跡、佐倉市に所在する近世の町屋に関する遺構や生業の痕跡が認められた新町遺跡の3つの遺跡から個性豊かな出土品を集めました。

　本展示が多くの方々にとって、印旛地域の歴史に関心を深めていただくと同時に、文化財保護への御理解に寄与できますことを、心から願っております。

　また、当センターでは今後も継続的に様々な時代の遺跡を調査してまいります。それらの成果につきましては、ホームページ、広報誌、YouTube等で随時お知らせします。是非、ご覧ください。

　最後に、遺物・写真資料の借用にご協力賜りました佐倉市教育委員会教育部文化課、四街道市教育委員会社会教育課、柏市教育委員会生涯学習部文化課、御後援いただきました印旛地区文化財行政担当者連絡協議会、ならびに多くの関係諸氏・諸機関に、心より御礼申し上げます。



展示遺跡の位置

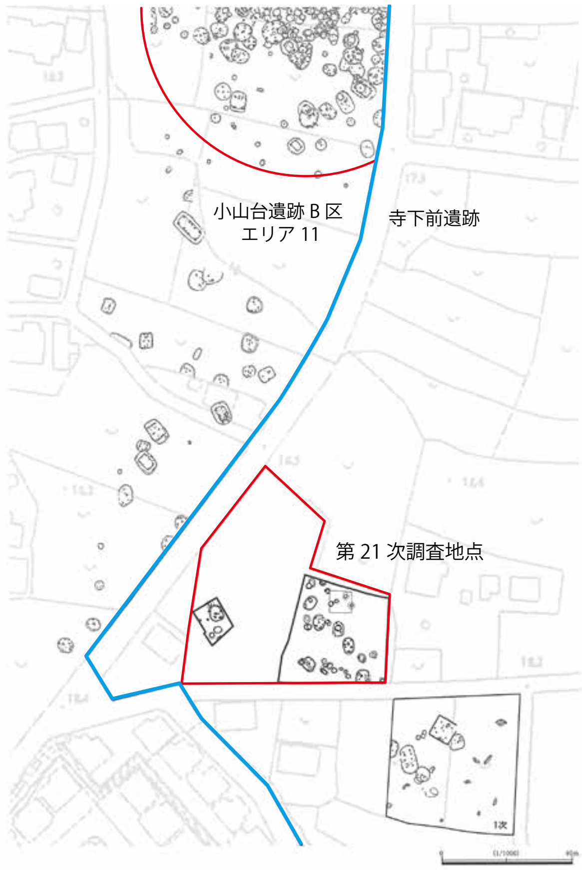
寺下前遺跡 －古鬼怒湾を望む集落－

寺下前遺跡は柏市北東部柏市大室字御領前1055-1外に所在し、千葉県と茨城県の県境である利根川を望む標高約18mの台地上に位置しています。発掘調査は宅地造成に伴い令和4年9月から約2か月に亘って調査が行われました。931㎡の調査区の中に縄文時代の住居跡8軒、土坑33基、トンネル状遺構2基、古墳時代住居跡1軒が確認されました。

土坑はいずれも断面形が横に張り出す「フラスコ状土坑」と呼ばれる形態であり、貯蔵用に掘られたものです。今回の調査でも各フラスコ状土坑からは、完形・準完形の土器が多量に出土しました。これらの土器は、阿玉台Ⅱ式から加曽利EⅠ式にかけての土器が主です。

古墳時代の住居跡はカマドがなく炉を持つ古墳時代中期ごろのものであると思われます。この住居跡では柱や梁であったと思われる炭化材が確認されており、焼失住居であると考えられます。この住居跡からは多数の土器のほかに、滑石製模造品も出土しています。

寺下前遺跡の北東側には小山台遺跡が隣接しています。小山台遺跡は分散していた集落が集合し、二つの環状集落を形成する大規模集落です。おおよそ2回の集落のピークがあり、そのひとつが阿玉台Ⅳ式から加曽利EⅡ式にかけてです。今回の調査で確認された遺構群は、環状集落へと集約されていく前段階のものであり、縄文時代中期の大規模環状集落が形成されていく姿をみることができます。



調査箇所と周辺の遺構

縄文土器出土状況

石製模造品（有孔円盤・剣形模造品）

東作遺跡 －中世の前線基地－

東作遺跡は四街道市中台字東作139-1他、鹿島川の支流を望む標高約29mの台地上に所在します。調査は令和3年10月から令和3年12月にかけて、都市計画道路の整備に伴い行われました。

調査の結果、現存の堀と合わせて城を防御する堀が検出されました。四角形の掘り込みで敵の行動を制限する、障子堀という形の堀です。検出されたのは堀の一部のみのため全体像は不明ですが、今回明らかになった部分は幅約2m、深さ約5m、長さ約11mという規模でした（写真1）。

堀からは中世の遺物として、陶器や土器のほかに五輪塔の一部が出土しています。出土したのは五輪塔の中でも空・風輪と火輪にあたる部分です。重ねた際に安定させるため、空・風輪には下部に突起が、火輪には上部にへこみが作られています。（写真2）

中世のもの以外の遺物も多数出土しています。土塁からは中世以前の時代の遺物がみつかりました。土塁は堀を築いた際に出る土を利用して造られることが多いため、城館ができるより前からこの地で人が活動していたことがわかります。また、今回の調査で最も多く出土したのは、近世の遺物でした。すり鉢や茶碗などの調理器具・食器は、城館としての役目を終えたこの地が、その後生活空間として利用されていたことをうかがわせます。

さらに、発掘調査を行うにあたり地形測量が実施されました。当時の周辺地域は、東作遺跡を含む鹿島川左岸の臼井氏と右岸の千葉氏が、川を境に緊張状態にあったと考えられています。測量図からは鹿島川方向に重ねて巡る土塁と堀が確認でき、勢力の境目に近いこの城が敵対する鹿島川右岸側からの侵攻を大いに警戒していたことが見て取れます（写真3）。

写真1　障子堀

写真2　1号堀出土石塔（左：空・風輪、右：火輪）

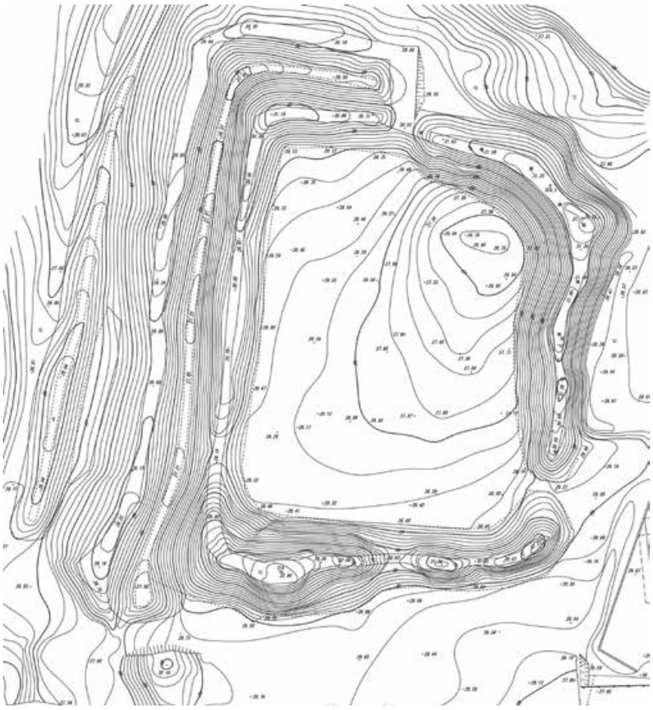


写真3　地形測量図

新町遺跡 －17～19世紀の町屋と大型土坑－

新町遺跡は佐倉市新町40番1外、鹿島川と高崎川が合流する地点の東側、標高約32mの台地上に所在します。

調査は令和元年12月から令和2年2月にかけて、佐倉図書館等新町活性化複合施設の建設に伴い行われました。

出土遺物の多くは、江戸時代から明治時代にかけての陶磁器です。周辺は町屋であり商人や職人が居住していたことから、生活で使用した陶磁器類が多く、碗などの食器や調理器具がみられます。

それらの中には18世紀前葉の肥前系磁器をはじめ、新宿区の四谷一丁目遺跡など江戸市中から出土する遺物と共通点があります。このことは、佐倉城下が発展を迎え、江戸から陶磁器を含めた物資が大量に流通した結果と考えられます。

遺構としては、地下に設けられた巨大な室状遺構が検出されました(写真1)。地上からの出入り口のほか、横方向へ続く狭い通路がみられます。この遺構からは、あまり類例のない高さ5㎝程度の小型の鐘が出土しました(写真2)。小さいながらも、よく見ると細部まで凹凸が表現されています。

新町遺跡(第14地点)の場所は明治時代に「印旛郡役所」が置かれ、その後平成11年まで「千葉県印旛支庁」が所在していたため江戸時代の遺構の大部分が壊されていました。しかし、今回の調査では17世紀から19世紀にかけての町屋に関連する遺物が多数出土しました。この他にも鉄製品が多数出土した土坑や人骨の一部が出土した土坑などが検出され、鍛冶関連の生活の痕跡や墓域の存在が明らかになりました。

写真1　大型室状遺構

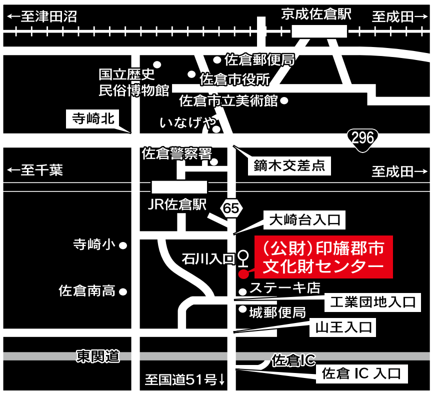
写真2　大型室状遺構出土　小鐘

写真3　肥前系陶器(17世紀)

歴史年表

※**太字**は展示遺跡

年代	時代		印旛郡及び周辺の主な遺跡	全国の主な遺跡	主なできごと
	縄文時代		原山遺跡(柏市)		気候が温暖化し、海水面が上昇する
約5千年前		前期		鳥浜貝塚(福井県)	
			和良比遺跡(四街道市)	三内丸山遺跡(青森県)	環状集落が形成される
			生谷松山遺跡(佐倉市)		
約4千年前		中期	**寺下前遺跡(柏市)**		大型の貝塚が形成される
				加曽利貝塚(千葉県)	
		後期	東海道遺跡(印西市)		土偶・石棒などが多く作られる
			井野長割遺跡(佐倉市)	亀ヶ岡遺跡(青森県)	
約3千年前			吉見台遺跡(佐倉市)		
		晩期	荒海貝塚(成田市)		
	弥生時代		荒海川表遺跡(成田市)	土井ヶ浜遺跡(山口県)	
約2千年前		前期			
				菜畑遺跡(佐賀県)	北九州に稲作が伝わる
紀元前			天神台遺跡(印西市)		
		中期			
紀元後			大崎台遺跡(佐倉市)	唐古・鍵遺跡(奈良県)	環濠集落の形成
			江原台遺跡(佐倉市)	登呂遺跡(静岡県)	倭国の内乱続く
		後期	飯郷作遺跡(佐倉市)	池上曽根遺跡(大阪府)	卑弥呼が邪馬台国を統治する
約1,600年前	古墳時代		一本桜南遺跡(白井市)		古墳の築造が始まる
		前期	北ノ作古墳群(柏市)		
			向新田遺跡(印西市)		
			鶴塚古墳(印西市)	大仙古墳(大阪府)	
		中期		江田船山古墳(熊本県)	巨大前方後円墳の築造
			道作古墳(印西市)		
		後期	宮前古墳(八街市)		
					1336　足利尊氏が室町幕府を開く
	室町時代		**東作遺跡(四街道市)**		
			本佐倉城(酒々井町)	一乗谷朝倉氏遺跡(福井県)	
	安土桃山時代			安土城跡(滋賀県)	1582　本能寺の変
約400年前	江戸時代		小間子牧野馬捕込跡(八街市)		1603　徳川家康が江戸幕府を開く
			中野牧野馬除土手(白井市)		
			新町遺跡(佐倉市)		
			佐倉城跡(佐倉市)	油田牧跡(千葉県)	



◇交通機関◇東関東自動車道佐倉ICから県道65号線経由で10分／JR佐倉駅からバス約7分、ちばグリーンバス「石川入口」下車

公益財団法人
印旛郡市文化財センター
千葉県佐倉市春路1-1-4　TEL 043-484-0126　http://www.inba.or.jp/

QRコードを読み込んでスマートフォンサイトへ今すぐアクセス！